

宮崎県は、平成27年度から文科省の委託を受け「スポーツを通じた心のバリアフリー推進事業」として、パラリンピアンや障がい者スポーツの専門家を講師に招き、特別支援学校13校と高校のスポーツを通じた交流及び共同学習を行っている。普段は共に学ぶ機会の少ない生徒同士が、スポーツを通じてお互いの理解を深め、障がいの有無を超えた共感と感動を得る貴重な学びの場となっている。

本県唯一の肢体不自由特別支援学校である清武せいりゅう支援学校は、27・28年度にボッチャで宮崎工業高校と交流。高等部生が使用するランプという補助器具をイ



みんなで一緒にハンドサッカーを楽しむ生徒たち

競技の専門家ら招き高校生と交流及び共同学習

ンテリア科の生徒が制作した。

29年度には、ハンドサッカーで電子情報科の生徒と中学部生が交流した。ハンドサッカーは、さまざまな実態の障がいのある子どもたちの能力を引き出し、活躍の場を広げるために、東京都の特別支援学校が開発したチームスポーツで、本県初上陸となった。日本ハンドサッカー協会から講師を招き、特別支援学校・高校の生徒も教師も一緒になってルールを学び、ゲームを楽しんだ。電子情報科の生徒がゲームに使用する支援機器のプログラミングを行うことで、お互いの理解を深め素晴らしい交流を行うことができた。

また、本県は29年度に特別支援学校が高等学校校体育連盟に加盟し、高等部生徒の高校総体への出場も可能になっている。

スポーツを通じて健常者との交流が深まり、障がい者スポーツへの理解が進むことで、障がいの有無にかかわらず、人々が生涯スポーツを共に楽しむ場が充実していくことを期待したい。

(野田尚子・宮崎県立清武せいりゅう支援学校校長)